

# 枚方教育

No. 1838  
2020. 6. 15

枚方教職員組合  
枚方市西禁野一丁目三  
Tel 八四八・三三〇〇  
FAX 八四八・三〇五二

## 文科省 無理を承知で「詰め込み」通知!? 子どもも教職員も「苦痛の学校」に

文部科学省は6月5日、休校による学習の遅れ、授業不足を取り戻すための通知を発表。「児童生徒の『学びの保障』総合対策パッケージ」を打ち出していますが、その内容は、結局学習内容は削らずに、年度内で授業を終える事を前提に、無理を承知の「詰め込み」を指示する内容となっており、枚方市教委の6月4日校長会で示された方針も、この方向にそった内容といえます。

### 2割は家庭学習に!? 無理を承知の「詰め込み」

文科省の今回の通知は、  
①学習内容の削減はせずに年度内で学習を終える。  
②授業時間の不足は土曜授業、夏休み縮減、行事の重点化で確保  
③それでも困難な場合は、学習の重点化で2割の学習内容は家庭学習、ICTで実施、学習遅れは個別に指導  
④【②でも困難な困難な場合は中3・小6以外は次年度以降での学習も可能(5/15文科省通知)】  
としており、学習内容の精選を放棄した無理を承知の詰め込み宣言といえます。  
夏休み短縮や土曜授業での子どもの限界を超える学習負担増は明らかです。学校生活のリズムや子ども同士の関係性を築く活動、「集団活動」になるための余裕、は奪われてしまします。

一方で文科省通知では、「学習遅れ」についての学校での個別指導も求めており、「落ちこぼされた」子どもに、「さらに「居残り指導」さえ要求されかねません。  
まさに、子どもにとっても、教職員にとっても「苦痛の学校」になりかねません

### 個人任せで落ちこぼし、格差を拡大

文科省のこの方針では、基本の習得や習熟が家庭学習、個人任せになり、家庭状況に大きく左右されかねません。  
文科省の通知で示されているように、学校での学習は対話的な深い学び、プレゼンや表現中心に重点化されれば、ついていけない子どもが大量に生み出されかねません。  
全日本教職員組合の5/20の提言」でも示されている

「学習内容の精選」「学校の工夫で柔軟な教育課程に」「20人以下などの少人数学級」の実現がますます切実なものとなっています。

### 枚方も行事精選も、年度内に指導。ICT活用

枚方市教委もすでに「土曜授業、夏休み短縮、中3での7時間授業などを打ち出していますが、6月4日の校長会では、  
①「年度内で当初予定の教育課程を終えることを前提に取り組みを進める」  
②令和元年度の未指導内容も含めて指導すること  
③休校、分散登校中の家庭学習と学校の学習内容の関連を確認すること  
を基本として打ち出しています。  
既報のように、第2波、第3波の感染拡大に備えて、夏

休み短縮、土曜授業、中3の7時間授業を打ち出し、さらに不足する分についてのモジュール授業なども検討していくことをあげています。  
別掲のように市教委行事の中止、学校行事の精選等を挙げているものの、中学校のEBSについては触れられていません。  
また、家庭で環境の整わない児童生徒へのタブレット貸与やGoogleの教育サービスを導入して、登校できない生徒への授業配信や課題のやりとりなどの取り組みを進めるとしています。  
また、5月市議会で全教員と中学全学年、小5・6への「1人1台」タブレット整備の補正予算に引き続き、国の補助金を受けて6月議会の補正では、小1から小4までのタブレット配備も計上される予定とされています。

感染対策・消毒作業も、「詰め込み授業」の対応も、個別指導の対応も、新たなICTへの対応も、学校現場には、限界をはるかに超える、気の遠くなるような対応が求められることとなります。

市教委は6月15日以降に学校が通常の教育活動を再開に伴い、「児童生徒の居場所」の取り組みを終了、留守家庭児童会も再開することを保護者向けに通知しています。  
その際に、三密を避ける点から、1班20人程度での編成と、可能な家庭の利用自粛を求めています。  
合わせて、小学校の教室を活用して対応することと、不足する人員について、小学校教員などの協力依頼を求める方針が示されました。

## 再開後も留守家庭児童会に教員の協力? 必要な人員予算配置・民間委託の断念こそ

民間委託の断念、留守家の人員拡充、待遇改善こそ  
行政の役割は現場の業務遂行のための人員予算の確保とそのため条件整備であるはずで、  
しかし、今回の方針は、その取り組みが十分でない中、現場に努力を強いるものとしか言えません。  
それどころか、留守家庭児童会を全面的に民間委託の検討は中止、撤回されています。  
長引く休校の中で留守家庭児童会の、社会機能維持のための決定的な重要性が明らかになり、これを必死に支えたのは、連日の限界を超える長時間勤務でしのできた指導員です。  
今必要なのは、安全・安心で豊かな放課後のため、留守家庭児童会の人員拡充と待遇改善であることは明白です。

- ### 6/4校長会の行事関連の主な内容
- 市教委主催行事  
小学校陸上大会、駅伝大会、漢字をテーマに思いを伝える作文コンクールを中止
  - 学校行事の縮小・精選
  - 小学校運動会  
・土・日に実施(可能な限り10月に)  
・種目精選、団体演技中止などで短縮はかる、  
・入場行進、組立体操、親子昼食は中止
  - 中学体育祭  
・感染対策の条件満たす競技にする  
・学年別の日程やスポーツ大会代替も可

### 不明な服務上の根拠、現場の過重負担

留守家庭児童会の業務は「保育」であり、教員の業務である「教育」とは全く違います。  
緊急事態宣言や休校状態が終了した現在、留守家庭児童会の業務に携わる必然性も法令上の根拠もありません。  
しかも、緊急事態宣言も解除され、学校も含めた社会活動が全面解禁になる中で、学校現場は、事業時間の確保の取り組み、消毒などの感染対策など、過重勤務に現場対応能力の限界をこえた毎日になります。  
組合としても、市教委に